

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ある日のことでございます。お釈迦様（しゃかさま）は極楽の蓮池（はずいけ）の縁を、独りでぶらぶらお歩きになっていらっしやいました。池の中に咲いている蓮の花は、みんな玉のように真っ白で、そのまん中にある金色のずいからは、なんともいえないういよい匂いが、絶え間なく辺りへあふれております。極楽はちょうど朝なのでございましょう。

やがてお釈迦様はその池の縁におたたずみになって、水の面を覆っている蓮の葉の間から、ふと下の様子をご覧になりました。

この極楽の蓮池の下は、ちょうど地獄の底にあたっておりますから、水晶のような水を透き通して、三途（さんず）の河や針の山の景色が、ちよほどのぞき眼鏡を見るように、はつきりと見えるのでございます。

するとその地獄の底に、犍陀多（かんだた）という男が一人、他の罪人と一緒にうごめいている姿が、お目にとまりました。この犍陀多という男は、人を殺したり家につけたり、いろいろな悪事をはたらいた大どろぼうでございますが、①それでもたった一つ、善いことをいたした覚えがございます。と申しますのは、ある時この男が深い林の中を通りますと、小さな蜘蛛（くも）が一匹、道端をはっていくのが見えました。そこで犍陀多は早速足を上げて、踏み殺そうといたしましたが、「いや、いや、これもちいさいながら、命のあるものにちがいない。その命をむやみにとるといふことは、いくらなんでもかわいそうだ。」と、こう急に思い返して、とうとうその蜘蛛を殺さずに助けてやったからでございます。

お釈迦様は地獄の様子をご覧になりながら、この犍陀多には蜘蛛を助けたことがあるのをお思い出しになりました。そうしてそれだけの善いことをした報いには、できるなら、②この男を地獄から救い出してやろうとお考えになりました。幸い、そばを見ますと、翡翠（ひすい）のような色をした蓮の葉の上に、極楽の蜘蛛が一匹、美しい銀色の糸をかけております。お釈迦様はその蜘蛛の糸をそっとお手にお取りになって、玉のような白蓮（びやくれん）の間から、はるか下にある地獄の底へ、まっすぐにそれをお下ろしなさいました。

【芥川 龍之介「蜘蛛の糸」より】

問1 —線部①それでもたった一つ、善いことをいたした覚えがございます。とありますが、どのような善いことをしたのですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 深い林のなかで道をはっている蜘蛛が邪魔だと思っただが、踏み殺さなかったこと。

イ 命をむやみにとるのはかわいそうだという理由で蜘蛛を踏み殺さなかったこと。

ウ 犍陀多が地獄にいるのはかわいそうだという理由から蜘蛛の糸をたらししたこと。

エ 犍陀多が蜘蛛を助けたという理由から、蜘蛛の糸をたらし、救い出してやろうとしたこと。

問2

—線部②この男を地獄から救い出してやろう

とお考えになりました。とありますが、お釈迦様がこの男を救い出そうと思っただのは、どのような考えからですか。文章から九文字で書き抜きなさい。
